

補習校創立五〇周年に寄せて

学校理事會理事長 青木 一美



グアム日本人学校補習授業校設立五〇周年おめでとうございます。長きにわたり補習授業校をご支援をいただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。補習校で学んだ卒業生たちが地球規模で頑張っているお話をよく聞きます。学校責任者として大変うれしく思う次第です。

五〇年の歴史の中で私は補習校PTA会長を二度経験いたしました。息子が九年前お世話になり、当時厳しい担任の先生に家庭学習の大切さを教えられ、我が家でも宿題のサポートに追われた日々を懐かしく感じます。現地校と補習校の両立は今も昔も大変さは変わりません。本日に日々の学習と努力が不可欠だと感じます。五〇年が経過して今尚この学び舎で多くの子供たちが一生懸命勉強している姿を見ていると社会に出てからの輝かしい未来像が浮かんできます。補習校の更なる発展を祈念しご挨拶とさせていただきます。

グアム補習授業校

開校五十周年に寄せて

グアム補習授業校校長 佐藤 康隆



グアム補習授業校の開校五十周年に際し、誠に喜ばしく、ここにこれまで本校にかかわっていただいた数々の諸先輩方の業績に感謝するとともに、児童生徒の皆さんそして、保護者の皆様にお祝いを申し上げます。

さて、本校は一九七三年・昭和四八年日本では史上最多の出生数が記録されたベビーブームとなり、その後続くバブルに向かって経済成長に邁進していましたがグアムにおける日本人社会も盛り上がりを見せていたことと察します。本校の児童生徒数も右肩上がりに増加の一途であったと伺います。その後、全日制の設立に本校からも多数の教職員が尽力し、両校がこれまでグアム日本人学校として共存して参りました。両校の共生については、校歌が共に同じであることから今後も末永くよい関係であり続けると信じております。

半世紀が過ぎ、多くの困難も乗り越えまた、ここ数年の新型コロナウイルス(COVID19)感染拡大も経て、現在は児童生徒数が六十名程になりました。グアムにおける日本人も多様な価値観をもつようになり、グアム日本人学校自体の在り方にも創意工夫が必要となっております。変えるべきことは、日々、様々なアイデアを日本人会や学校理事會、そして教職員で出し合い検討しています。また、変えざるべきこととして、伝統や方針、考え方も数多くあります。それら不易流行をしっかりと見極めこれからも本校、そして日本人学校が発展していくことを願ってやみません。



五十にして天命を知る、
そして次の五十年で

二〇二二年度補習校PTA会長

武石 大吾



グアム補習授業校、創立五〇周年おめでとうございます。

五〇年目という区切りの年に、補習校のPTAに関わらせて頂いたのは、何かの縁だと感じずにはいられません。学校に残っている卒業証書台帳によると、二〇二二年三月の卒業式までに小学部からは四八四名、中学部からは七〇三名の卒業生が、この学び舎から巣立って行っています。そして、二〇二三年三月の卒業式では、小学部から三名、中学部からは八名の新卒業生が、羽ばたいていきます。おめでとうございます。

海外駐在をしていると、日本人学校、補習校の存在は、日本人にとり、非常に重要で、そしてありがたい在外教育施設です。各自宅で幾ら日本語を使っているかと、補習校にて土曜日に学ぶ日本語、日本文化、平日に学ぶ算数・数学(九九は

日本語が一番)、書道、そして、日本人の友達との切磋琢磨は、子供の成長に非常に大きな影響を与えます。

私の補習校との初めての付き合いは、オマーン国の首都マスカットからでした。今、グアム補習校では九名の教諭と約六〇名の児童・生徒がいますが、オマーンでは全日制はなく、補習授業校には、文科省からの派遣の校長とオマーン日本人会が雇用した先生、加えて保護者がAT(アシスタントティーチャー)としてサポートして、学校を作り上げています。児童・生徒も小一から中三まで一〇名しかいません。中東アラブの国なので、週末は金曜と土曜。補習校は土曜日というのはグアムと変わりません。小さい学校の良いところは、子供の進度に応じて、授業内容をどんどん変えられること。中学校の授業では、高校受験対策なども行っており、帰国後に最高学府に進んだ子供たちも多くなります。

さて、今、グアムの日本人学校は、コロナの影響、日本の人口減、国力減の影響もあり、過渡期を迎えています。全日制も補習校も、コロナの影響もあり児童・生徒数が激減し、全日制は現在四〇名、補習校も五〇名。二〇二二年の学校運営収支は二三千ドルの赤字、ここに

体育館建設の銀行借入返済が加わるため年間収支は一三四千ドルの赤字。現在の体力(銀行残高)では、二〇二六年まではどうにかかなりそうですが、銀行借入は二〇二七年までですので、まずは今後五年間、園児・児童・生徒を増やし、加えて効率経営を行い、学校経営の健全化を早く図って頂きたいです。

モットーは、グアム日本人学校をグアムの日本語教育のメッカに。日本語能力検定試験(外国人向け検定試験)の指導を行うことで、ローカルの日本語教育ニーズを取り入れたり、日本人学校卒業生が、大学受験で優位になる日本語のAP(アドバンス・プレースメント)高校大学接続の早期履修プログラムでGPAの引き上げが可能)を取るための補助授業を行う等で、グアムならではの特色のある、そして皆に愛される日本人学校、グアム補習授業校になることを期待しています。

最近では人生一〇〇年と言われていますが、補習校はまだ五〇歳。まだまだ人生半ばです。是非、二〇七三年には一〇〇周年記念事業を行っていただき、そのころ一〇三歳の私も是非参加させて頂ければ幸甚です。

五〇周年の先へ羽ばたこう

日本人会教育部部長 権田 正



グアム補習授業校が二〇二三年で五十年を迎えます。一九七三年に当時の日本航空の会議室に開校されて半世紀が経つわけです。何もないといいるところから、子供達の教育を思い大変な苦勞をされた方々、またその意思に答えて日本語を忘れまいと一生懸命勉強された方々、そして今の補習授業校を支えておられるたくさんの方々と皆でこの五十年を共に祝いたいと思います。そして同時にこれから先の五〇年の土台をつくらなければならぬ大きな責任を感じています。コロナ禍の辛い三年が、先に横たわっていた補習授業校の課題を前倒しにし、学校維持の財政問題や、生徒の減少などの問題を突き付けてきています。日本文化の魅力を伝えながら、いかに日本語を覚えてもらうか。通いたいとおもう補習授業校にするにはどうしたらよいか生徒が多様化した現在においては、大きな問題です。しかし、ぶっつけ本番の運動会

をこなし、修学旅行で絆を深め、入学式、卒業式で共に校歌を歌ったことが、必ずこの先に広がる青空に羽ばたくすばらしい翼をくれます。学校を巣立ったらさらに大きく強い翼にして、五十年を越えた先の日本人学校補習授業校にたくさんの方々のエネルギーと希望を持ち帰ってきていただきたいと思えます。その道標になる五十年記念誌を作成してくださった方々に感謝いたします。

学校の大切さを教えるコロナ

第十六代校長 井澤 恒晴



創立五〇周年、おめでとございます。私は、二〇一七年一月から二〇二〇年一月まで、三年間お世話になりました。ちょうど、漢字検定・日本語検定を

活用した学習を起動に乗せようという時でした。この習熟度別学習は、国語力の個人差が大きい補習校にとって、ひとつの解決法であると思ひ、充実に努めました。このユニークな取り組みを検証したかったのですが、最後のまとめができませんでした。その原因は、COVID-19 パンデミックです。グアムでは二〇二〇年一月から感染が広がり始め、補習校は卒業式を開催出来ないまま、その年度を終えました。皆が用心するなか、三月に日本人学校職員に感染・発症者が発生。私も濃厚接触の疑いで、自宅で二週間の自主隔離をする羽目になりました。



我が使命 海を越えて!!

スミス 八恵子



当時、補習校は電話のクラス連絡網しかありませんでした。これでは動きが遅いと思いメール連絡のリストを作成し始めました。日本語クラスを含めて全家庭のメールアドレスを探し出すことは、意外に手間取りました。一斉メール配信が可能になって、4月に教科書・教材の配布、5月上旬にリモート授業開始と、子どもたちの学習を再開することができました。この陰には補習校の先生方の多大な努力と団結がありました。コロナは私たちに学校の大切さを教えてくれました。ただ、学校再開の前に帰国になってしまい、子供たちに会えなかったことが心残りです。

一九八八年十月末日、私は結婚したばかりの主人と日本国総領事館へ行き、在留届の手続きをしました。

「スミスさん、来年四月から全日制の日本人学校が出来るのですが、現地の人で日本の教員免許を持っている人が居なくて、文科省から許可が出ないので。スミスさん、日本人学校の教員になってもらえませんか?」

「ええー!」私は在留届を出しながら、もう二度と学校の先生と日本舞踊は出来ないものど心に言い聞かせていたのでした。そして、二、三日して、日本人会会長の山口氏とボダリオ久子先生にお会いし迷わず「やらせてください。」と即答。次の日から補習校で授業をすることにになりました。

当時、フジタホテルからタムニング小学校に移り、午後三時半から六時、火曜日から金曜日、土曜日は朝八時半から一二時半迄。しかし場所を借りているので、

授業の後はずぐに学校を出なければなりませんでした。一九九〇年四月からマンギラオの日本人学校の新校舎へ、全日制、補習校共に移って、ともに同じ職員室で勤務しました。両校の先生が同じ職員室に居ると云う事で良いことがあります。

- 一つ、同じ教室を使う教員同士で話し合いが出来ること、
- 二つ、お互いに問題を抱えていると立場の違う面で意見を出し合えること、
- 三つ、同じ学年同士で授業の交換が出来ること。

以上の三点の良き、今でもはつきり思い出します。

他方、今でも私の心に大きな穴となっているのは、ボダリオ久子先生が突然グアム日本人学校から姿を消されたことです。

海を越えて

世界に羽ばたけ

君の叡智よ



小さな教室から大きな一歩を

力武 哲哉



補習校の最初の印象は、「教室が小さいな」ということだった。子供たちの人数も一クラス十人足らず。「これならやりやすいな」と思ったものである。ところが、その思いはすぐに砕かれた。当然だが、ここはグアムである。日本人の学校とはいえ、少し様子が違う。

最初のしばらくは、子供たちも物珍しいのか、私の様子を伺っている。私は子供たちの真剣な眼差しに気を良くして、一方的に話しまくっていた。そんな授業が面白いわけがない。子供たちはすぐに本性を現わし、隣にいる友達と何やらヒソヒソ話をしだす。それは当然英語である。「これは一筋縄ではいかないな」。それから子供たちとの闘いが始まった。だが、年を追うごとに少しずつ要領がわかってくる。所詮は子供だ。つまり、純粹であり、素朴である。とくにグアムの子供たちには、そのことをつくづく感じる。つい英語を話してしまうのは、

日本語があまり得意ではない子供であるが、本当は彼らだつて真剣に日本語と格闘していたのだ。それから、あつという間に十三年が過ぎた。いま振り返れば、たくさんの子供たちの顔が浮かんでくる。みんな笑い顔だ。日本語と闘った彼らは、今ごろどうしてるのだろうか。たまにはあの小さな教室を思い出し、そして明日からの大きな未来に一歩を踏み出してほしい。

補習校創立五〇周年に寄せて

片桐 悠爾



グアム日本人学校補習校授業校の創立五〇周年を心よりお祝い申し上げます。校歌を作詞する際に思い描いたことは、世界地図上では小さな点に過ぎないグアム島で学ぶ児童生徒の皆さんの中から、世界的に活躍するような大人物が出ることを願いました。また校歌の作詞は、補習



補習校創設五〇周年に寄せて

遠山 重春



授業校と全日制の児童生徒の皆さん全員を対象に制作しました。末永く両校で仲良く歌い続けてください。時の流れは速いもので、グアム補習校設立から半世紀が過ぎました。人生は、単に時間の経過と見ることもできますが、私は人生を因果律（原因結果）で見えています。青春時代を大切に過ごすことがとても大事だと思うのです。皆さんには、勉強は勿論、スポーツでも芸能でも、自分の好きなこととことん打ち込み、一流を目指し、トップを目指して欲しいのです。打ち込んだ分だけ、極めた分だけ将来素晴らしい結果をもたらしてくれるでしょう。



親孝行を忘れず、何があるうとグアムのために、日本のために、世界のために、貢献できる人になってください。補習校創設五〇周年お祝い申し上げます。私の長女も五〇歳になり、今は無きフジタホテルの倉庫の二階に有りました補習校で大貫先生ご夫妻に三年間ですがご厄介に成っております。ボダリオ先生他にもお世話になったと思います。一度大貫先生から「遠山さん、娘さんを家で補習をさせて下さい。」と言われてきましたが、私の妻はハワイ出身で日本語が出来ず、又、私はホテルの料理長の役職のため夜遅くまで勤務していた為に娘に日本語を教えることが出来ませんでした。大貫先生のご指導により、何とか日本語を少しですが話せるようになり、グアムの日本企業の旅行会社のツアーデスク勤務も致しております。長女いわく大貫先生ご夫妻は大変優しく、私もそう思っております。第一回秋祭りにも大貫先生ご夫妻を初め補習校生徒達もお祭りに参加していただきました。

